

第一回 南区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

1. 日 時 平成27年6月17日（水）午前10時～

2. 場 所 南区役所3階ホール

3. 出席委員

佐藤委員、清本委員、兼田委員、辻田委員、金子委員、上田委員、福原委員、
吉村委員、井村委員、平川委員、赤松委員、岡委員（副会長）、宮本委員、
田中委員（会長）、金井委員、島田委員

4. 配布資料

- (1)－「会議次第」
- (2)－「委員名簿」
- (3)－「【資料1】南区まちづくり懇話会概要」
- (4)－「【資料2】平成24～26年度南区のまちづくり」
- (5)－「【資料3】平成27年度南区のまちづくり」

5. 次第

- (1) 開 会
- (2) 委嘱状交付
- (3) 区長挨拶
- (4) 会長、副会長選出
- (5) 南区まちづくり懇話会について
- (6) 南区まちづくり推進事業等について
- (7) 意見交換
- (8) その他
- (9) 閉 会

6. 議事録

事務局 会長及び副会長の選出について、推薦はないか。

A 委員 会長は都市計画・環境・健康福祉・人材育成など幅広くまちづくりに精通されている熊本大学准教授の田中委員を推薦する。

事務局 田中委員の会長への推薦があったが、他に推薦はないか。他に推薦がないようであれば、田中委員を会長に選出でよろしいか。

(委員一同 異議なし)

事務局 副会長について、推薦はないか。

会長 南区で長期にわたって安全安心分野の活動をされている岡委員に副会長をお願いしたい。

事務局 岡委員の副会長への推薦があったが、他に推薦はないか。他に推薦がないようであれば、岡委員を副会長に選出してよろしいか。

(委員一同 異議なし)

事務局 要綱第7条により会長に議長として会議の進行をお願いする。

会長 これより議事に入る。議事の5の①「南区まちづくり懇話会について」の説明を事務局からお願いする。

(事務局 「南区まちづくり懇話会について」説明)

会長 まずは、委員の皆さんに自己紹介をお願いしたい。自己紹介とご自身の地域や専門分野について自慢したいこと、皆さんに知ってほしいこと、そして南区になってからの3年間で変わったこと、変わっていないことなどを教えてほしい。

副会長 南区になって一番変わったと思うのは住所。南区を抵抗なく書けるようになった。区ができて本庁まで行かなくても区役所でできるようになった。これまで出張所でできなかったことは本庁へ行っていたが、今はほとんどの手続きが区役所で出来るようになって助かっている。

B 委員 飽田地域で自治会長をしているが、地域住民に政令市になったという実感がないと感じている。また、他の自治会長からも政令市になってから自治会長の仕事が煩雑になったという声が多く聞かれる。理由は本庁と区役所と出張

所のうち、どこに何を言えばいいのかがわかりにくく混乱をきたしているからだ。そのあたりの市の組織の整備を整えていかなければ、政令市のメリットが見えてこないのではないかなと思う。飽田の自慢としては、飽田東校区は転入者が多く戸数が多いこと。しかし、飽田西と飽田南は人口も子どもも少なく過疎化が進んでいる。

C 委員 天明地域で自治会長と連合会長をしている。天明地区ではこれから田植えシーズンを迎え、田んぼに水が張られ水面が広がり、田植えが終わったら、緑豊かな田園地帯が広がる。そんな環境の中で、人間性も大らかな人が多く、良いところに住んでいると思えることが自慢できるところだ。

D 委員 幸田地域で公民館長をしている。幸田には新しく田迎西校区ができ、新しいコミセンが4月に開設したばかりだ。30数年教員をしていたため、この会議には学校教育や社会教育の面からも参加させてもらいたい。最近、公民館の広報誌「自治協だより」を白黒印刷からカラー印刷に変え、写真を多く掲載して多くの人に読んでもらえるように工夫した。

会 長 広報誌のカラー印刷は良い自慢だと思う。第1期の懇話会でも情報の有効な伝達の仕方について議論した。ちょっとしたことかもしれないがそれが意外に大事なことだったりする。

E 委員 南部地域で民生委員やボランティア活動をしている。8年前から平日は毎朝近所の通学路に立って、日吉東小学校に通う児童達に声掛けと交通安全を呼びかけている。20年間のボランティアを通して地域のことが見えてきたことが私にとって一番勉強になったと思っている。

会 長 日吉東小学校については「まち歩き手帖第3版」にも掲載されている。E委員のような地域の方が児童とふれあい、協力してくれたおかげで、これに掲載されているような日吉東小学校の取り組みが出来たと思っているので、とても感謝している。

F 委員 富合校区の地域婦人会長として10年くらい活動している。26年前に富合町に転入し、ここに骨を埋めるつもりでいるが、それならばこの町を自分で楽しくしようと思い、婦人会長をやっている。地産地消のために富合町の名産である辛子レンコンの味を子どもから大人までおいしく食べられるようなレシピを考えて、一昨年は県の食の名人の認定をいただいた。なるべく地域のものを使って美味しいものを作りたいと考えている。荒れ放題の竹林があったが、そこを一昨年から健康まちづくり事業の一環で竹の子堀り活動に使用してもらっている。そういうところで地域に貢献していることが自慢できるところだと思う。また、一昨年は農業コンクールの地域貢献賞をいただいた。富合地域は農産物や名所・旧跡があるのでそういうものをアピールしていくと良いと思う。今後もこのような活動をやっていきたい。

- 会 長 自分から楽しくしようと思って婦人会に入られたことが素晴らしいと思う。他人に任せるより自分でやるほうが早いし楽しいと思うので、南区の方にはそういうやり方で盛り上げて行ってほしい。
- G 委員 私も 26 年前に城南町に転入し、今は校区自治協議会の副会長をしている。これまで会長は 4 代変わったが、私はずっと副会長を続けている。自慢は、「城南火の君太鼓」という団体を 23 年前に立ち上げてこれまでずっと活動していること。それと、城南町に児童館や図書館や体育館など新しい施設ができていることが自慢。児童館・図書館はいつも大勢の人で賑わっているし、良い体育館も出来て、住民としてはうれしく思っている。変わったことはたくさんある。3 年間で変わったというより、特例区が終了した今年にいろいろ変わったと感じている。以前はたくさんあった配布物を配布しなくて良くなったが、その分回覧板で P R や周知をしにくくなった。企画してお知らせする方法が足りないと思う。先日、南区が関わっているフットパスの集会があり、私は興味があるので参加したが、ほとんどの人が開催自体を知らず、P R 不足だと感じた。
- 会 長 旧城南町地域は今年から変わることがたくさんあると思うが、良い部分は引き継いで、変わって良かったと思えることを増やして行って欲しい。
- H 委員 川尻青年協議会の副会長をしている。子ども達が楽しんで、地元にもた帰って来たいと思えるように、小学生と川尻地区を繋げて行くために、「川尻わっしょい」という 3000 人規模の祭りを開催していて、今年で 8 回目となる。本業ではお寺の副住職をしているが、以前開催した「寺フェス」というイベントには 4 万人の来場者を呼んだ。川尻にはお寺が 19 あり、お寺を活かしたまちづくりができたらいいなと思う。南区になって変わったことは、こういう会ができたこと。町単位で話していたことが、南区全体で情報の交換ができるようになったことは素晴らしいと思う。
- 会 長 川尻以外でも南区にはお寺がたくさんあるので、南区全体でお寺を活かしたまちづくりができればよいと思う。
- I 委員 生まれも育ちも富合で、子どもから先輩までたくさんの方々と繋がっている。小学校と中学校で 5 年間役員をしており、昨年は会長をさせていただいた。南区内での集会も多く、南区となったことでまとまりがでてきて、自分たちで力を合わせてやっていこうという意欲が見えてとても勉強になったし仲間もできた。個人的な自慢は熊本城マラソンで 2 回完走したこと。南区を自分の足で走って、歩いてみると、車では気づけないたくさんの発見があった。富合の祭りは今はやっていないが行政の力を借りて計画している。
- A 委員 天明の商工会に所属して 5 年になる。商工会は熊本市に 8 つあるが、そのう

ち 4 つは南区にある。飽田、天明、富合、城南に西区の河内の商工会を加えて 5 つで西南部広域連携を作っていて、イベントや研修会、研究会と一緒に実施している。南区フェスタや新幹線フェスタにも参加している。商工会、広域連携は県内に 11 あるが、西南部連携会は事業数の多さやその他も良くやっていると県連の本部より評価を受けている。第 1 期のまちづくり懇話会に参加してみて、自分では南区について色々知っているつもりだったが、富合の六殿宮や城南の大銀杏など初めて知ったことも多かった。改めて南区についてもっと知らなければと思った。

会 長 まずは「知る」ことから始まり、次に「伝える」ために新しい情報を発信していってもらいたい。

J 委 員 力合校区に引っ越して 20 年。地域に入るつもりで、子育てのボランティアを始めた。青少年指導員を 12 年ほどしている。また、民生児童委員を 10 年していて、南部ブロックの地区長をしている。10 年経過して気力が低下していたが、こういう場で皆さんの話を聞いているとパワーをもらってまだ頑張ろうと思った。主人と山登りに行くが、雁回山では六殿宮や小屋滝など色々な発見がある。地域の自慢は力合が 1100 人を超すマンモス校で、昨年力合西小学校が新設されたこと。民生委員として赤ちゃん訪問をしているが、今月力合校区は 2 件、力合西校区は 20 件あり、これから力合西校区がますます発展していくと期待している。

K 委 員 食生活改善推進委員の支部長をしている。飽田東校区はスーパーマーケットが何もない地域で、お年寄りバスに乗って近隣で買い物している。食改は校区ごとになって活動が多くなり大変だ。市の食改協議会の会長をしているが、長く続けるのも良くないと思い、引き際を考えつつ活動を頑張っている。個人的には変わったことはあまりないと感じている。

L 委 員 加瀬川開発研究会に所属している。川に浸かって 25 年、川で生まれて川で死ぬことが私のモットーの川大好き人間。昨年、「南区の自然を活かしたまちづくり」で川下りを行ったが、川にカヌーを 50 隻用意し賑やかなイベントになった。今は“自然に生きる”ということが薄れていると思う。子ども達はパソコンやゲームばかりで、もっと自然に親しんでももらいたい。自慢はたくさんあるが、今度「川下り合コン」というイベントをする。申込開始後、すぐに募集人数に達成したほど応募者が多かった。1 組でも 2 組でもゴールしてくれたら良いと思っている。南区でもこうゆうアイデアを出せると良いと思う。変わったことは、南区役所ができたことで便利になったこと。先程マンモス校の話があったが、中緑校区は全校生徒が 44 名で複式学級でやっている。数年前から空き家対策事業を始めて、小学生のお子さんのいる家庭に勧めて 5 名ほど増えた。

M 委 員 私は歴史文化担当となっているが、学問的にやっているわけではなく、お地

蔵さんや石碑、お宮や神社について調べるのを趣味にしている。今のところ、川尻、天明、飽田、近見辺りは調べたが、今後田迎方面も考えていて、南区になって目標が大きくなった。最近は廃校になった小学校も調べている。

N 委 員 富合の農業委員をしている。合併後、都市計画の農地転用手続きについて、農家の皆さんの間には戸惑いがある。厳しくなった規制を緩和できたら南区にもっと住宅も増えると思う。自慢と言えるほどではないが、東日本大震災時に、近所の方が単身赴任で仙台にいて、5 年ほど耕作放棄地になっていたその方の土地にもち米を作り、4 年ほどかけて東北にもち米 300 キロを届けた。今年は食育を考えて、近隣の保育園児に田植えから稲刈りまでしてもらい東北に送る計画をしている。

会 長 大学では工学部の土木工学科で川や道、ダムを造る手伝いをしてきたが、本当の専門は歴史で、その中でも一番の専門は景観。南区らしい、熊本らしい風景を残していきたいと思っている。最近は自分の専門にこだわらず、市役所や区役所が地域の方々と一緒にまちづくりできるのであればなんでもやろうと思って頑張っている。自慢は「まち歩き手帖」を3年続けて作れたこと。南区のまちづくりの依頼があったとき、自分は素人のよそ者なので一旦はお断りしたが、前区長から「知らない人が知っていくことが大事だ」と言われ、作ったのがこの「南区まち歩き手帖」。3年で一番変わったと思うのは「南区のまちづくりが楽しそうだ」と言ってもらえる機会が増えたこと。これを今後続けて行きたい。そして、もっと外に伝わっていったらいいなと思っている。情報発信が大事なので、良いところを自慢できる南区になって欲しいと考えている。

区 長 自慢と言えることは小学校から大学までバレーボールをやっていて、今もソフトバレーをしており、200 チームほど出場するような大会を主催している。3 年連続で熊本県代表として全国大会にも出場していて、昨年は全国大会で準優勝だった。新潟で開催される今年の大会でもがんばりたい。政令市になり区政になって、現在は行政がそれぞれの地域に根付くような組織に変わっていく途中の段階だと思っている。

会 長 5 区それぞれが目標を立ててやっているが、それぞれの地域らしさの魅力を発信して自慢することが大事だと思う。今までの皆さんのお話の中で気になることや資料についてお尋ねはないか。

G 委 員 H 委員が川尻にはお寺がたくさんあるとの話をされたが、城南地区にもいっぱいある。城南に住み始めて寺の多さに驚いた。フットパスコースにお寺めぐりがあったら面白いと思う。兵庫県でお寺を活かしたまちづくりをしている事例があって、それぞれのお寺が特徴を出して観光に活かしており、見に行ったこともある。南区でもそういうイベントを探していけたらと思う。

- 会 長 フットパスは富合や城南で盛り上がってきている。お寺のような歴史あるものを活かして寺フェス等のイベントで若い方達にも繋がっていかれると思う。
- H 委 員 一番いいのはお寺が何かをするのではなく、お寺を使ってまちづくりをしてもらうこと。何百年も前からずっとあるもので、掘りどころでもあっただろうし、いい空間もある。実際に川尻では2月の川尻月間で「お寺めぐり」というイベントをお笑い芸人等呼んでやっている。何箇所かのお寺を回って、私のお寺では写経体験をして、お守り作りをして持って帰っていただくというイベントをしている。
- 会 長 自分たちだけでやらず、他の人を巻きこむことが大事だと思う。美里町の場合はフットパスの取り組みを町外にオープンにされているから全国的に美里町方式が広まっている。寺フェスも広げていくという考えで、寺フェスと一緒に公民館の活動をするとかでも良いのではないかなと思う。
- H 委 員 お寺を利用して、まち全体で取り組めば、そういうこともできると思う。
- 会 長 元気な方々が繋がっていけるよう、アイデアを活かして南区から行動できれば良いと思う。今年の「まち歩き手帖」は雁回山特集とのことだが、それについて教えてほしい。
- 事 務 局 今年度作成する「まち歩き手帖第4版」は雁回山特集を考えている。雁回山は登山ルートが色々あり、熊本市だけではなく、宇土市・宇城市からでも登ることができる。富合からは3箇所、城南からも2箇所の上り口があるので、皆さんが気軽に登っていただけるようなコース作りをしたいと考えている。滝があり、昔は木原不動尊で修行をされる方が山に泊まって滝に打たれていたという歴史もあるので、そういうエピソードなども手帖に記載したい。皆さんにも色々アイデアをご提案していただけたらと思っている。
- 会 長 個人的にはこの手帖を使った自慢大会を開催したい。この手帖を使っている人達が実際にどれだけ歩いたかを自慢しあうような大会やまち歩き手帖博覧会などが出来たらいいなと思う。
- L 委 員 昨年の南区の自然を活かしたまちづくり事業の「雁回山ウォーキング」では、ただ山に登るだけではおもしろくないので、山の名前の由来にちなんで雁回山頂上で子ども達に弓矢の体験をさせた。もし、今年も開催するならば、せっくなので六殿宮大祭で流鏑馬をするときの衣装を着た方が頂上にいて、そういう姿を見せるのとさらに楽しめるのではないかな。
- G 委 員 若者にどうPRできるかが非常に大きいと思っている。平日の昼間は仕事をしている方がほとんどだし、子育て中のお父さんやお母さんにどんどん参加してもらいたい。特に夜間に開催されるものについては、自治会長にだけPRし

でも広がらない。昔はことあるごとに婦人会が活動していたが、今は婦人会自体が小さくなっており、元気が良いのは PTA。城南町にある「おやじダンス」や「てっちゃん劇団」の母体も PTA だ。ぜひ保育園・幼稚園・小中学校の PTA 等の若者に向けた発信を行政からしてもらいたい。

副 会 長 各まちづくり交流室に情報交流拠点を設置しているが、それをうまく活かす仕組みを作らないとボードを設置しただけでは意味がない。そこに人を集める努力が必要だし、若い人と会えるような仕組みをまちづくり交流室で仕掛けられないか。地域の自治協議会や PTA の方などから情報を得ながら、行政と民間が協働で何かできると良いと思う。せっかく情報交流拠点を作ったので、それをうまく活かすために、人を集める仕掛けを交流室からできないか。

富合まち
づくり
交流室 昨年開催した「とみあいサマーフェスティバル」を今年も 8 月に開催する。今年は、新成人にステージスタッフとして参加してもらおう。元々は青年団で行っていたが、来年も新成人を迎え、徐々に人数を増やして先々は司会や進行を任せて行きたい。そういうふうに若い人達を巻き込んでやっていきたいと考えている。

会 長 情報交流拠点については、まちづくりを担っているまちづくり交流室の負担は大きいと思う。情報発信はみんなのできるものにしなければならないし、その拠点を作る場所も大事。それをやりたいと思っている人にやってもらうのが一番なので、特に若手の方から主張できる雰囲気作りをしていきたいと思う。

副 会 長 空間の中に人が集まる「溜まり」があることが大事。昔はお寺の境内で子ども達が遊ぶことも多く、お寺が子ども達の溜まりになっていた。井戸端や洗い場はお姉さん方の溜まり場、飲み屋は旦那衆の集まりの場だった。町中でも集落でもそういうちょっとした「溜まり」の場がある。その一番公的なものがこの情報交流拠点だと考えていいと思う。

会 長 この懇話会もその「溜まり」の場の一つだ。今後もしろんな意見やアイデアを出してもらって、まちづくりを進めていけるよう明るく楽しくやっていきたい。